

長崎県の

# 戦争遺跡と戦没者慰霊碑



～全ての戦争犠牲者を悼み  
不戦の誓いを新たに～



平成23年12月  
令和5年3月更新

長崎県福祉保健部原爆被爆者援護課



## 表紙写真紹介



長崎県忠霊塔

明治元年の戊辰戦争から太平洋戦争までの長崎県籍の戦没者 60,723 柱を祀る大村市三城町に建つ追悼施設。平成 15 年度までは県忠霊塔で県戦没者追悼式が執り行われていたが現在は「シーハットおおむら」に会場を移している。

(平成 13 年 10 月撮影、詳細情報は 45P に掲載)

写真提供：長崎県戦没者慰霊奉賛会



鎮魂長崎の碑

太平洋戦争において、沖縄や南方諸地域、中国大陸で戦没された長崎県籍の戦没者 35,000 余柱を祀る追悼施設で、南方の戦地に最も近い沖縄の南端に位置する糸満市摩文仁ヶ丘に建つ。

(平成 23 年 11 月撮影、詳細情報は 45P に掲載)

写真提供：長崎県戦没者慰霊奉賛会



県忠霊塔前での出兵式模様

北支方面派遣大村第 227 連隊 (昭和 14 年 4 月撮影)

写真提供：長崎県戦没者慰霊奉賛会  
県忠霊塔管理奉仕者、上野豊城氏

## 前 書 き

平成23年12月に「長崎県の戦争遺跡と戦没者慰霊碑」の編纂を行い、県のホームページに登載しているところです。それから10年が経過して戦争体験者も減少しており、さらに「戦争の悲惨さを後世に語り継ぐ」重要性は非常に高まっていると思われます。

そこで市町のご協力をいただき資料を見直し、再編集を行いました。

そして、皆様に利活用していただき、次世代へ地元の戦争遺構や慰霊碑の存在を認識してもらい、戦争の実相、平和の尊さの継承を働きかけてまいりたいと考えております。

また、今回の再編集に伴いまして、「戦没者追悼施設」の後に、戦争に関する「資料館」の項目を追加いたしました。

実際に当時の資料を見ていただき、より戦争に関する理解を深めていただければ幸いです。

令和5年3月

長崎県原爆被爆者援護課

太平洋戦争終結から66年の歳月が過ぎました。折しも平成23年は、太平洋戦争開戦から70年、満州事変勃発から80年目の年に当たります。祖国の繁栄と家族の幸せを願いつつ戦場に散り、あるいは戦後、異郷の地で亡くなられた幾多の戦没者、原子爆弾や空襲で犠牲となられた数多くの一般市民の方々へ哀悼の誠を捧げるとともに、戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に語り継ぐ一助となればとの思いから本書を編集しました。

太平洋戦争の4年間では、犠牲となられた同胞が3百万余、近隣諸国では2千万人ともいわれる大きな犠牲を伴いました。歳月は過ぎても戦争を体験された方々の苦しみやご遺族の悲しみは何時までも癒されることはありません。

戦後生まれが8割近くを占める現在、戦争を知らない世代が多数となり、戦争体験を語り継ぐ方々が年々少なくなっています。同時に、歴史を刻む戦争遺跡や戦没者を祀る追悼施設も時間の経過とともに風化し忘れ去られがちとなります。実体験ならではの戦争体験者の異口同音の話しに及ぶことはできませんが、戦争に関わる長崎県内の記録物としての本書を通して、犠牲となられた方々や当時の苦難に思いを巡らしていただき、過去の『道程』から学び、恒久平和への道を進む『道標』となれば幸いです。

最後に、本書の編集にあたってご協力いただきました県内各市町及び教育委員会並びに関係団体の皆様方に対しまして、この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

平成23年12月

長崎県原爆被爆者援護課

---

◆ 構成・目次

I	戦争遺跡・遺構	.....	1～ 43P
II	戦没者追悼施設	.....	44～ 94P
III	資料館	.....	95～ 97P
IV	資料		
	1.事変・戦争略史	.....	98～ 99P
	2.郷土部隊の略歴	.....	100～108P
「長崎県戦後 50 周年平和記念文集」より転載			
	○ 戦争をしてはならん	.....	43P
	○ 島原の子守歌によせて	.....	94P

---